

奈良県放課後児童対策推進委員会 概要

- 日 時：令和2年8月28日（金）9：30～11：30
- 場 所：奈良県庁分庁舎 第51会議室
- 議 題：放課後児童クラブと放課後子ども教室の現状について
放課後児童支援員の確保と資質向上について
学校との連携について
- 出席者：岡田龍樹委員長、菊池由利委員、澤和七委員、畑香委員、
春山真美委員、細田七海委員、森永晃委員（五十音順）
- 事務局：文化・教育・くらし創造部こども・女性局 奈良っ子はぐくみ課
教育委員会事務局 人権・地域教育課
- 傍聴人数：なし
- 議事概要：

<開会挨拶>・・・金剛こども・女性局長より挨拶

<議事>

<定足数報告>・・・委員7名出席（1名欠席）

<新委員紹介>・・・事務局より別添委員名簿に基づき、新委員を紹介

<資料説明>・・・事務局より各議題について説明

主な意見については以下のとおり

<コロナ禍の研修・情報交換について>

【畑委員】

放課後児童クラブの指導員を対象とした研修において、今般の新型コロナウイルス感染症の感染リスクを懸念する声が挙がっている。感染症の影響がなくても、県南部（山間部）から研修に参加するのは大変。オンライン研修の活用は検討していないのか。

【事務局】

オンライン講義を行ううえでは、受け手側のハード面（パソコン、Wi-Fi等）の環境が整っている必要があり、どのように実施するのが今後の課題。

【岡田委員長】

研修の参加意義には、専門的な知識が得られるという面だけでなく、現場で働く指導員同士で情報交換ができるという面もあるが、それについて何かご意見をいただきたい。

【畑委員】

指導員の仕事は子どもの見守りだけでなく、子どもや家庭の問題、アレルギー、保護者対応など多様な問題を抱え、専門的な知識も要する。働き始めてからその大変さを知り辞職する人も絶えないが、同じような状況で働いている人たちの意見を聞ける場があれば助けになる。

【細田委員】

他のクラブの様子を知ることによって刺激を得られ、モチベーションにもつながる。向上心や続けたいという気持ちを維持するうえでも、研修や情報交換の場はとても貴重。

【岡田委員長】

学童保育連絡協議会がそのような役割を果たせるのではないか。

【畑委員】

連絡協議会や保護者会のない市町村が多い。現場の声が行政に届きにくいので、現場の思いと行政の働きかけが乖離しやすい状況。

【岡田委員長】

コロナ禍を機にオンラインでの意見交換、交流の場を設けられると、感染症終息後もその体制が機能していくかもしれない。

<クラブの質の向上について>

【細田委員】

放課後児童クラブの指導員を対象とした資質向上研修について、県が実施する研修とは別に、各市町村で独自に研修を実施しているところもある。実態を把握しているか。

【事務局】

詳細は把握していないが、市町村により実施状況が異なることは認識している。

【細田委員】

研修の受講状況や新任指導員の仕事の教わり方にはクラブ間で非常に差がある。指導者であるリーダーを対象とした県の研修は有意義。リーダーの立

場にある人は、責任が重いにも関わらず処遇がいいとはいえない状況。

【畑委員】

リーダーだけでなく、運営主体に対する研修も必要性がある。運営主体の意識が低いとリーダー研修の発展が望めず、全体の資質向上には繋がらない。運営主体側が指導員をひとつの専門職として認め、それなりの処遇を構築した上で子どもたちの成長に関わるという思いを持たないと、処遇改善・資質向上は望めない。

【細田委員】

運営主体によっては、質の向上の必要性を理解しておらず、研修を無駄な費用と捉えるところもある。

【岡田委員長】

運営主体への研修は、対象となる運営主体の形態が公営、民営、指定管理と様々なので難しいところはある。

【事務局】

県では、研修以外でサポートする方法として、巡回サポート事業の実施を検討している。アドバイザーを派遣し、各クラブを巡回して指導や相談に乗るといったサポートができないか考えている。

【岡田委員長】

県内全てのクラブにおいて質の底上げをはかるには、クラブが多くのご家庭の役に立っているという認知を広げるべき。そのためにモデルとなるようなクラブを設定して取り組みを紹介していくなど、クラブ側からの発信も必要。

【細田委員】

コロナ禍で保育所と並んでクラブが取り上げられるようになったものの、世間ではあまり知られていない。生活の場として学校より多くの時間を過ごす指導員を保護者があまり重視していないことにも疑問を感じる。

【春山委員】

保護者の中には、怪我さえしなければ良いと思っている人も少なくない。子どもたちの居場所としてどのような環境がふさわしいのか、保護者も考えるべき。

【岡田委員長】

家庭で抱える子育ての悩みとクラブでの悩みは同じ。クラブに専門的な知識があれば、クラブから一般家庭へもその知識が広がるのだから、保護者にとってもクラブの指導員の質を高めることは非常に重要。

<学校との連携について>

【畑委員】

学校が学びの場であるのに対し、クラブは生活の場。本来なら家庭で過ごす時間に親の代わりをしているのが指導員。学校側が子どもたちの情報を保護者に伝えるのと同じように、クラブに伝達できるといい。

【細田委員】

学校とクラブの連携の障害として、市町村の教育委員会と福祉担当部局が分かれていることも大きい。

【菊池委員】

連携するにあたり、児童一人ひとりが学童に出席する日かどうかを学校側で把握するのは難しい。一方で、必要な情報が伝わらないと子どもの命に関わることもある。個人情報扱う観点からも、教職員と指導員との情報共有の仕方には課題が残る。

【森永委員】

クラブを利用する児童が年々増加するなかで、すべての児童の状況を把握するのは難しい。学校側の立場としても、学童での様子を共有したいが、クラブからの報告を受けようにも教員は帰宅している。学校とクラブとの相互交流は課題と認識。

【澤委員】

学校と指導員の直接のやり取りが難しいのであれば、両者の間に指定管理者のような第三者が入ることで上手く連携できる。

【菊池委員】

奈良市では、退任された校長先生が各クラブを回って保護者との調整や指導員との連携をしている。現場経験のある方が間に入ることで指導員も安心できる。

【畑委員】

保護者の意識改革も大切。保護者や地域、それぞれの立場での連携が必要。

【菊池委員】

子どもにとっても、先生と親以外の大人が自分の生活に関わってくれるということが後に大きな財産になるはず。

【細田委員】

学童の中で人間関係が育まれていること保護者の方々にも知っていただければと思う。

【岡田委員長】

学童を理解していただく情報発信は必要。モデルクラブによる取り組みの紹介とあわせて、インターン等も積極的に受け入れ、認知を広げていけたらいい。

【菊池委員】

奈良市では地域コーディネーターとの連携も検討している。地域支援として子どもたちを見守っている存在が加わることで、学校とクラブ間の連携にもつながるのではと考えている。